

真龍小便り



真龍小学校の子ども

つながりを求める子
かかわりを求める子
納得を求める子



平成29年9月29日発行 No.8

小さな一歩 されど大きな前進

校長 武田 昌彦

今月は5年生の宿泊研修、6年生の修学旅行とそれぞれの学年が学校を離れ、宿泊を通しての学習がありました。

5年生はネイパル厚岸に宿泊し、アイスクリーム作り、焼き杉板、七宝焼きなど制作し、火起こし体験、キャンプファイヤーなど色々な体験活動をしてきました。6年生は十勝方面へ出かけ、チーズ作り体験、厚岸町PR、川下り体験、公共の場（施設）での行動の在り方などたくさん学んできました。ただ、少々残念だったのは2学年とも天候に恵まれず予定していた活動の一部ができなかったことでした。しかし、本来の目的は達成できたと思います。修学旅行での出発式では「良い旅行にするために、一人一人が努力してほしい。予定外や失敗なども、試されているんだと思って学んできてほしい」と伝えました。6年生が旅行から帰ってきた姿は、疲れがあるものの充実した顔と、手と心に大きなお土産をもって全員元気に帰校しました。5年生も6年生もとっても良い学習でした。

さて、本校も前期が終了し、後期がスタートしました。前期の学習成果はどうだったでしょうか。1年生は初めての通知表をもらって何を感じたのでしょうか。他の学年もそうですが、今回もらった通知表は、前期の学習した結果です。もし、満足できなかった部分があったら、それは次にどう生かすかが大事になります。どう改善するか何をするかです。そのためには反省が重要です。「よかった」「悪かった」では感想になってしまいます。さらなる成長のためには悪かった部分も現実として受け止め、次に何をどうやるかを考えることです。考えたら後は実行です。小さな一歩ですがとても意味のある大きな前進です。踏み出すことを願っています。

ちょっと気になる・・・

子どもたちを見ていると気になることがあります。それは、靴の履きかたです。かかとを踏んで履いている子が何人もいます。靴が小さくなって履きにくいのか、めんどろでそう履いているのか。靴の命はかかとです。踏んでいるとダメになってしまいます。部活の指導をしていた頃、競技で使う靴（スパイクなど）を買うときかかとの形で選ばせていました。日本人のかかるとに合う靴を選ばないとベストを出すことができないからです。それくらいかかとは大事なのですが、それをつぶしてしまうとは、とても残念です。靴の寿命がとっても短くなってしまいます。さらに、自分の思い通りの動きができなくなってしまいます。そうなると、とっさの時に危険から身を守れなく恐れもあります。ですから靴のかかとは大事にしてほしいと思います。もし、お子さんが靴のかかをつぶして履いていたら一言お願いします。

10月のこよみ

日	曜	行事
1	日	
2	月	北方領土学習(6年) 運動の日(外)
3	火	特別日課 クラブ④(卒アル撮影)
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	体育の日
10	火	学習発表会特別プロ開始 会場準備①
11	水	職員会議 情報館読み聞かせ
12	木	
13	金	特別日課 係活動① 会場準備②
14	土	
15	日	
16	月	就学児知能検査 (1~5年午前授業)
17	火	特別日課 楽器搬入 会場準備③
18	水	
19	木	
20	金	特別日課 係活動②
21	土	開校記念日(真小) 朝会(講話) 土曜授業
22	日	
23	月	
24	火	特別日課 係活動③ 会場準備④
25	水	総練習(児童公開日) 街頭指導
26	木	
27	金	特別日課 係活動④ 会場準備⑤
28	土	
29	日	学習発表会 自転車終了
30	月	振替休業日
31	火	

前期から後期へ

前期終業式の児童代表から、「あいさつをする
ととてもいい気持ちになるので、後期もあいさ
つを大切にしてほしい。」という発表がありまし
た。あいさつは、人と人とのコミュニケーション
を図る一歩目だと思います。児童からこのよう
なお話が聞ける
と、毎日の授業や
学校生活の中で、
友達の考えを理解
することを大切に
していることが伝
わり、うれしくな
ります。



津波による避難訓練

自分の命は、自分で守るための思考力や判断
力を育むために、9月4日に避難訓練を実施し
ました。

地震は授業が終わる頃に発生し、一旦おさま
り休み時間に入ったものの、大津波が押し寄せ
てきたという想定で行いました。

役場の方から、「声を掛け合いながら避難し
ていたのは、大切なこと。避難途中に出会った人
にも声をかけて避難
をうながしてほしい。」というお言葉を
いただきました。



全国学力・学習状況調査の結果から～算数計算編～

この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析することで、児童への教育指導の充実や学習状
況等の改善に役立てるために、毎年行われているものです。

ですから、本校の子どもたちの学力や学習の状況は、保護者と学校で共有することがとても大切
になります。そこで、今回は算数Aに出題された、計算の順序に関わる問題について状況を共有し
たいと思います。

「 $6 + 0 \cdot 5 \times 2$ 」の本校の平均正答率は、全道平均より高く、全国平均を若干下回っていま
した。このような、たし算とひき算が混ざった計算は、計算の順序に気をつける必要があることは、
保護者の方もご存じかと思います。しかし、「たし算やひき算よりもかけ算やわり算の方を先にや
る。」という計算の順序のきまりだけを教え込まれても、左から順に計算をしてしまう児童は減り
ません。児童の真の理解につなげ、学びを深めるためには、「50円の商品と150円の商品3つ
の合計金額を求める。」という具体的な場面を想定して式を立てるなどの、指導の工夫をすること
が大切になります。

学校では、単に全国平均に比べどうであったかを見るのではなく、「この問題が解けるようにな
るには、日常の授業をどのように工夫する必要があるのか。」という視点で、この調査結果を活用
しています。

真龍おはなし隊からの10月のおすすめ本紹介

「でんせつのきよだいあんまんをはこべ」

作：サトシン 絵：よしながこうたく

アリたちの前にとつぜん現れた伝説のあんま
ん。あまいあんこにアリたちは期待でいっぱい
です。

みんなで知恵をしぼってあんまんを手に入れ
るために力を合わせてがんばるアリたち。

さあ、あまいあんまんの味はどうか？ただ
のあんまんも、アリたちにとっては巨大なごち
そうです。おいしく食べられるでしょうか？

こころがあたたまったできごと

9月のある日、職員室の窓から子
ども達の下校の様子を見ていま
した。バックネット裏あたりの歩道で、
真龍小学校の児童7～8名と、20
人ぐらいの幼児の集団が出会いま
した。工事で道幅が狭くなってい
ますが、無理をすれば幼児たちよりも先
に、踏切方向へ行けそうなタイミ
ングでした。児童たちは、幼児の集団
が踏切方向へ渡りきるまで、立ち止
まって道を譲っていました。

その児童たちにとっては、当たり
前の行動なのかもしれませんが、日
常の学びを生かして実践している姿
を見て、心があたたまりました。